

報

連載「レンズを通して」
高円宮妃久子殿下

画

最新情報はこちら!
FUJINGAHO
113 YEARS & BEYOND
fujingaho.jp

婦人

別冊付録
銀座の
手土産
2018



11 November 2018
No.1384

涙とほほえみの迷宮
長崎・天草へ

フェルメールに

夢中!

ごちそう

「ご飯」レシピ

野の花、熊本に

やつぱり
この街が好き

お銀座



女優・竹内結子さん、
最旬の銀座を巡る

ファッションで綴る
銀座家族物語

ここは大人のテーマパーク
銀座で
美容エクスペリエンス



Magazine Cloud
電子版でも読めます

ザクロさんの恋

文 山田詠美

その店には、ザクロさんという風変わりな源氏名を持つ女優志願の美しい女性がいた。当時まだ小説家志望だった私は、夜の仕事を転々とする途中の銀座で、彼女に出会った。

私は、チーフの手伝いとしてカウンターの働きながら、フロアでくり広げられる色恋をつぶさに観察していた。何しろ、自ら勝手に決定した未来の小説家であるから、後に役立てようと姑息に目論んでいたのである。

開店前のある時、ザクロさんはカウンターの腰を降ろし、ねえ、と私にコースターを差し出した。これ、何て読むの、と。裏に「柘榴」とあったので、ザクロさんの名前じゃないですか、と言うと、彼女は、困ったように溜息をついたのである。

「——さんに連れて来られた学者のお客さんじゃない？ ぼくのもっともそられる植物の実です」と言って、こう書いたの」
 気障ですね、と笑った私の目に、真紅の口紅が付いたザクロさんの歯が飛び込んで来た。注意するのも忘れて、私は見入った。その口許が、まさに熟して裂けた柘榴の実のように思えたのだ。

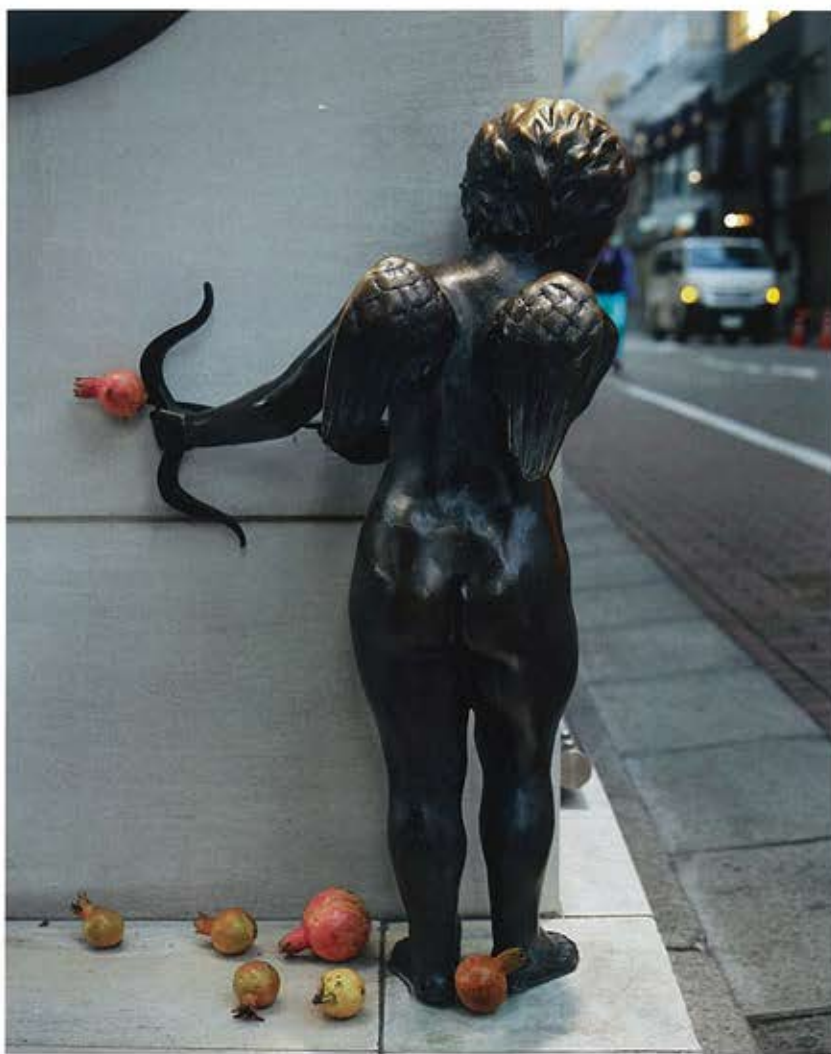
新しい恋をそのかす私に、ザクロさんはなまめかしく微笑んで、またもや歯を見せた。濡れていた。

Profile

やまだえいみ●1959年東京生まれ。「ベッドタイムアイズ」で文藝賞、「ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー」で直木賞、「風葬の教室」で平林たい子文学賞、「アニマル・ロジック」で泉鏡花文学賞、「風味絶佳」で谷崎潤一郎賞、「生鮮てるてる坊主」で川端康成文学賞を受賞。さまざまな恋愛や日常を美しく描き出す作風で知られる。

たなかたかゆき●1981年生まれ。フラワーアーティスト。花卸市場勤務時代に世界的フラワーアーティスト、ダニエル・オスト氏と出会い、師と仰ぐ。オスト氏の世界遺産でのエキシビジョンなどでアシスタントワークを手掛けた。その後、united flowers設立。空間装飾、ランドスケープ、広告、アートプロジェクトで活躍中。

1879（明治12）年創業の老舗、宝石・時計店「天賞堂」のシンボル。「天使前で待ち合わせをするとカップルが結ばれる」「頭をなでると幸せになる」。そんな都市伝説が世界中のSNSで話題になっている。文字通りの恋のキュービッドは、彫刻家・山田朝彦氏による作品。



「日月の花」 柘榴 Zakuro

学名：Punica granatum
ミソハギ科ザクロ属

初夏に鮮紅色の花を付け、秋に熟すと硬い外皮が裂け、赤く透明な多汁性の果肉の粒が無数に現れる。太古よりエジプト神話の女神、マリヤ、鬼子母神など、女性母性とともに絵画に描かれることが多い。花言葉は、優美、円熟美。

「今回使用したそのほかの花」
 ケイトウ、シユウメイギク、ピパーナム、アスチルベ、パニカムなど。

花人・田中孝幸さん、
 「こんな風にいけました」
 華、贅、芸、酒、社交、文学などの言葉が似合う銀座。強者風情の男性の街というより、したたかな母性を持ち、憂いある女たちの街のイメージがある。銀座と女を結び花を考えたとき、実りの柘榴が浮かんだ。その着想から始まった。

